

# これからの学校と地域 第3号



## 学校と地域のよりよい連携・協働をめざして

烏山中学校では、学校と地域の連携・協働活動が徐々に活性化してきました。

それは、烏山中学校の教務主任であり、学校側の窓口である地域連携教員も担う大谷貴之先生と、学校運営協議会委員や地域側の窓口である地域コーディネーターを務める三森紀子さんとの連携がうまくできている証拠でもあります。

地域コーディネーターの三森さんは、様々なアイデアをおもちで、まずは学校の環境整備から連携・協働活動をスタートさせたいとおっしゃっていました。その結果、写真のように、地域の方々と生徒による花壇整備が実現しました。また、生徒との話し合いを実施し、その中から生徒の思いをくみ上げ、学校と地域の連携・協働に反映させたいという思いもおもちです。



しかし、「やりたい」だけでは実現しないのが学校です。学校には教育課程という「学びの設計図」「学びの取扱説明書」のようなものがあり、これにのっとって日々の教育活動が行われています。1年間の活動についてあらかじめ設定されているため、イレギュラーな出来事（例えば、緊急事態宣言による休校や突発的な行事の実施など）には調整が必要になります。その調整役を担っているのが大谷先生です。



地域との連携・協働活動を行うにも、ただやればよいというわけではなく、教育課程上どのような扱いにするのか、先生方の授業に影響はないかなど様々な観点から考えた上で実施していきます。

次年度から本格的に始まる烏山中学校区学校運営協議会の中で、学校と地域の連携・協働は熟議の話題にもなるでしょう。

また、このような活動に対して地域の方々がボランティアとして参加し、子どもたちの未来のため、地域の方々自身のやりがいづくりのため、ますます学校と地域の連携・協働が盛り上がっていくことを願ってやみません。



調理実習に地域の方がボランティアとして参加しました。